

2020年3月1日

福音書からのメッセージ

イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」
(マタイによる福音書17章7節)

イエス様は荒れ野で40日間、昼も夜も断食しました。そしてその後、イエス様は悪魔の誘惑を三回も退けられます。一度目はお腹が空いたイエス様に対し、地面に落ちている石ころをパンに変えるように命じてみたらどうかという誘惑です。二つ目はイエス様を神殿の屋根の端に立たせ、飛び降りてみたらどうか、あなたが神の子なら天使が支えるはずだという誘惑。そして最後のものは、わたしを拝みなさい、そうすればすべてのものを与えようという誘惑でした。

イエス様はそのそれぞれの誘惑に対して、聖書の言葉を用いて答えます。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」、「あなたの神である主を試してはならない」、そして「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」と。

わたしたちはこのような誘惑に打ち勝っているのでしょうか。神さまの言葉に生かされ、神さまを試すこともなく、ただただ神さまに仕えていく。言葉だけでは簡単そうに見えることですが、実際には全然できていない自分に気づくことがしょっちゅうです。自分に頼ってしまうし、神さまどうしてですかと何度も問いかけるし、神さまの存在を忘れてしまうこともしばしば。そしてこう思うのです。こんなにできていない自分はダメだと。

今日の福音書はわたしたちに何を伝えようとしているのでしょうか。登るのが無理な山でも、何とかして登りなさいということなののでしょうか。そうではないと思います。



神さまはイエス様をわたしたちの間に遣わされました。それはわたしたちが弱い人間だからです。神さまに何度も背き、正しく歩めない。そんな一人一人だからです。もし

わたしたちが自分の力で立てるならば、イエス様が地上に遣わされ、十字架の道を歩んで行くことなどなかったはずです。

神さまは罪に苦しみ、右往左往しているわたしたちの姿をご覧になり、何とかしなければと考えられました。わたしたちがどうでもいい存在だったら、そんなこと考えなかったでしょう。しかし神さまはわたしたちを愛し、大切に思っておられるから、何とかして救いたいと考えられました。

わたしたちはイエス様が誘惑に打ち勝たれたように、強くありません。今日の荒れ野の誘惑の物語は、そのことをいつもわたしたちに伝えてくれます。どんなに弱く、汚れていたとしても、いや、だからこそ、イエス様はわたしたちの代わりに十字架につけられ、わたしたちを支えてくださるのです。

イエス様はわたしたちと共に歩んでくださいます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>